

【鹿野_小鷺河】地域の未来づくり懇談会 開催概要

- 1 日 時 令和6年8月20日(火) 19時00分～20時00分
- 2 場 所 小鷺河地区公民館
- 3 出席者 地区7名
市12名【都市整備部長（交通政策課）、市民生活部長（協働推進課）、鹿野町総合支所長（産業建設課・地域振興課）】
- 4 テーマ 安心して暮らせる持続可能な地域づくりについて

5 概 要

【地元あいさつ】

本日はお忙しい中、地域の未来づくり懇談会にご出席いただきお礼を申し上げます。
前回は平成29年に地域づくり懇談会として開催し、7年ぶりとなるが地域の未来づくり懇談会ということで名称を変え、主に地域交通というテーマに沿った関係者の方と市幹部職員の方に集まっています。限られた時間の中ではあるが、よりよい地域作りに向けて意見交換を行う。みなさんのご協力をお願いする。

【市民生活部長あいさつ】

この懇談会は感染症が広がったため3年間休止していたが、昨年度から名称を「地域の未来づくり懇談会」と改め再開している。本日のテーマは安心して暮らせる持続可能な地域作りということで、これからの地域の未来について皆さんと意見交換させていただきながら一緒に考えるような会にしたい。

【都市整備部長あいさつ】

当地区の地域の未来づくり懇談会で共助交通についてというテーマを選んでいただきお礼申し上げます。

どこの中山間地域でもこの共通の課題を抱えていると考えている。本日も議論を参考に横展開、あるいは支援のモデルになるような話ができればと思い来させていただきました。忌憚のないご意見をいただきたい。

テーマ 安心して暮らせる持続可能な地域づくりについて

【地元(説明)】

いろんな課題はあるが今回交通関係の問題を取り上げた。地域交通の関係でキラリ号という乗合タクシーを試験的にやってみた。利用者が思うように伸びず結局は実現しなかったが、地区の中で、何らかの交通手段が必要な人、現時点では自分が運転できる人、家族と同居しており家族が運転してくれる人、いろんな方がおり公共交通の切り替

えが難しいと感じた。とはいえ少子高齢化が進み自分も含めていずれ運転ができなくなる。そのときになってから考えても遅いということを強く感じた。どういう形でやっていくのか、小鷲河地区で持続的に続けることができるのか、地域にも問いかけ考えていく必要があると思って今回のテーマにもあげた。

幸いにも気高循環バスがあり、何とか最低限のところは動いているが、実際の利用状況を見るとこのバスがいつまで続けることができるか危機感を持った。

まもる会の方でも久しぶりに先進地視察を行い智頭町へ行き、地域で取り組むものとして今実際に動いているものを確認したが、行政のサポートも必要だが行政任せでも難しいという意見を聞き、地域でも考えていくことができればと思っている。

【交通政策課】

循環バスの維持と運行時間の見直しに関して、具体的にこの時間帯に走ってほしいという希望が欲しい。もちろん循環バスは他地区も回るため調整は行うが具体的な希望時間があればそれを元に見直しを図る。

バスの利用者が減少傾向にあり、青谷では日ノ丸バスから翼運輸へ運行事業者の交代があったが、交通は地区の生活を守るために必要なものだと考えている。ただ、バス利用者が減少する中、一昨年と昨年度に試験的に乗合タクシーを実施したが、地域の移動ニーズに合ってなかったのではと考えている。

今日は共助交通の資料を用意したが、予めルートを決めたもの、呼ばれたら迎えに行くなど色々な形がある。勿論循環バスの方が良いということもあるので地域の生の声を聴き改善に向けて一緒に検討を行いたい。

【地元】

先般、智頭町の共助交通を視察に行ったが、具体的に取り組みの動きがあってではないものの、地区として公共交通がなくなる恐れがあるので、今から一歩でも進むきっかけのために見学を行った。

今走っている循環バスを利用しているが大変ありがたい。乗合タクシーのキラリ号を試行したが、予約の電話を入れてタクシーに来てもらって乗るという事に抵抗感があり、特に年配の方に定着しなかったなので、この循環バスを続けてほしい。

【地元】

小別所に家族と同居の方や、別居している方も土日に帰ってきており、そういう分では現状困ってないが、先々のことを考えると不安になる。自分が車に乗らなくなった場合にはやはり循環バスなどを利用すると思うが、一番困るのは病院の通院、次に生活に

足りないものを買に行きに行くことだと思う。その時の具体的な交通手段が必要か考える。

【地元】

循環バスを利用している方にキラリ号という乗合タクシーがあると声をかけたことがある。普段タクシーを利用する習慣がないため電話してタクシーに来てもらい、外出するというのに抵抗感があり怖いというイメージを持っている様子だった。

【地元】

通院も月1回程度なら送迎を家族に頼むが、自分の趣味の集まりで頼むのは気が引けるため週に1回は循環バスを利用している。他のバス利用者からは現在10時台に小鷲河行のバス便がなく、11時半まで待つ必要があり、その間は待つ場所もないのが不便だと意見を聞いたことがある。

【地元】

地元のイベントの際にも循環バスを利用して来場する人もいる。できるだめ多くの人に参加してほしいが、そのために送迎の車を用意することもできないため、循環バスのような交通機関があれば行き来がしやすい。

何年か前に、総合支所の空き部屋に郵便局や銀行、医者など関係機関を集約することで、役場に来れば一通り用事が済むような計画があったがその後の動きはどうか。

【鹿野町地域振興課】

ファシリティの計画はあったが全て撤退されて、現在は複合化ができない状況。近々行う総合支所改修は一階に全ての機能を集約するという協議を進めている。

【地元】

そうなると循環バスで行きたい所に行けるようなルートや運行時間の設定が必要になるかと思われる。それから高校生の送り迎えは親がしているため、循環バスが必要なのは病院や歯医者への通院だと思われる。大抵の独居老人だと現在は自分で運転したり家族の送迎が期待できるが、5、10年先になる免許返納を行い家族の送迎もできない状況を考えると危機感を覚える。

学生も朝晩でバスを利用することもあるが、部活等で遅い時間になるとバスが必要になっても利用できない。そのため家族に送迎してもらい、バスの利用率が下がるという悪循環があるかもしれない。利用者のニーズ調査が必要になる。

また別の利用形態になるが、先程電話を掛けるのに抵抗感があるという話があったが、公民館であれば公民館職員が対応できるため、例えば乗り合い運行の敷居が低くなるのではと考える。

循環バスと二本立てになるが、まず循環バスを利用しやすい形態に持っていきたい。

【地元】

個人的な意見だが、運行しているのは気高循環バスであり気高町を中心としているため小鷲河に合った運行状況ではない。小鷲河と鹿野、小鷲河から浜村の限定した範囲でルートと運行時間を設定できれば利用増が見込めないか。

また今の循環バスの時間は早い時間・遅い時間・土日という範囲で、このルートでの限定した形を設定できたら利用者が増えないかと思う。

【地元】

気高循環バスは他の地区ともまたがって運行しているため、鹿野から浜村という独立した地域で独立したシステムがあれば便利かと思うが、利用者全員にあった方式とはなかなか難しい。循環バスがあれば良いがさらに気軽に移動ができる仕組みがあればと思う。今のところは具体的なイメージはないが、どんな仕組みであれば可能性があり、そのために何が必要か考えたい。

それにあたって行政の支援もいただければありがたい。往々にして支援事業といえメニュー方式であり、枠の条件を外れると支援ができないという事がある。仕方ない部分もあるが、地域独自の取り組みができる支援策があると動きやすい。

【交通政策課】

ご意見として承る。市町村合併から気高循環バスは運行範囲を広げており、鹿野まで繋がったという印象がある。運行会社の変更もあり現在は翼運輸が運行しており、少しづつ使いやすい形に見直しを続けているが、利用しづらい所があると思われる。

循環バスだとある程度コースを決めてダイヤが決まるため、万人の移動ニーズや時間帯には合わないかと思う。

その中で一つの案として地域住民が運転手になる共助交通という方法の資料を用意した。現在7つの地区で共助交通を実施しており、地域の声を聴きながら運行体制を取り組んでいる。NPO法人やまちづくり協議会が主体となり乗り合いタクシーのような形態で行う場合には人件費の助成という形で補助しており、車の購入費についても条件はあるが支援を行っている。運輸支局への届出などの事務手続きもサポートをするが、地域が主体となって行う時はこういった補助もできる。

福部町では社会福祉協議会が主体の「らっちゃんバス」を運行しており、それぞれ公民館単位で動かれているし、用瀬町では三つの地区限定だがすべての循環バスを利用できる形で運行している。最近運行開始したものもあるが、それぞれの地域の声を運行体制に取り入れ、少しずつ改善を進めている。

この共助交通をしてほしいという話ではないが、それぞれ地区で共助交通を取り入れた際の大まかな流れの資料を用意した。小鷲河地区にも様々な意見があると思われるのでアンケート等で、地域のニーズに応じたい。

日ノ丸バスとの調整が必要であればサポートをさせていただく。まずはアンケートのような形で地域の皆さんはどう考えているか把握するのが最初になると思われる。

【地元】

要望か地区の意見の取りまとめの話になるが、アンケートの結果で少数の人だけが必要だと言う場合でも循環バスは続くものか。

【交通政策課】

仮に循環バスが様々なことで利用者が少なくても、地域の生活を維持する上で何か移動手段が必要だと考える。今後利用が減っていくとバスを小さい車両に変更する、走行する曜日を定めるなど、税金がかかるため運行経費を下げながら折り合いをつける必要はあると考える。

【地元】

循環バスについてのアンケートや昨年のタクシーの件もアンケートをとっているが、なかなか地元の本当の声というか困っている意見が吸い上げられない。今回提案いただいた他の地域で実施したアンケートを参考にしたい。

他の大きい地区での交通手段を考えると、我々地域からすると不便な面があるため、できたら小鷲河という小地域で進めたいという思いがある。

先般の智頭町は大きい地区で配車システムや運行システムを外部業者から取り入れて実施しており、確かに費用は多額だが智頭という大きな地区での利用を考えると費用対効果はあるかと考える。同様のシステムを小鷲河という小地区に取り入れたら、コストが非常に高額になるため導入が難しいかと懸念している。

【交通政策課】

まずは小鷲河地区にとって良い運行手法を費用のことを抜きに考えてほしい。勿論、税金を使用するため気高循環バスと共助交通を天秤にかけながら、循環バスのコストを一部削減しながら浮いたコストを別の交通に利用する等全体で調整する必要があると思

う。ここの小鷲河地区でどういった仕組みなら実行できるか、何か良いアイデアがあればそれを温めて一つの仕組みにしたい。例えば共助交通に取り組むならスタッフ体制を整えなければ前に進められない。まずはそこが一つのハードルになるし、今は循環バスがあるのでそちらに注力して改良を進めた方が容易かもしれない。

皆さんに意見をいただきたいのはこうしてほしいというお願いや、こういうアイデアもあるという所を出していただければ。

【地元】

それではお願いですけど、バスの時刻表が全部一枚の紙に書いてあって見づらい。

鹿野線なら鹿野線の1枚の時刻表にして大きい字で記載してもらったら年寄りでも読みやすい。各家庭に配られていても見にくくて利用しにくいかなと感じた。

【産業建設課】

今の時刻表はJRのダイヤ改正が4月1日にあったため、情報共有をするため緊急に全戸配布で対応したもの。現在は各バス停留所に各地域ごとに時刻表を貼り付けている。停留所の各地域ごとの時刻表を配るのは難しいので、停留所の時刻表を確認していただきたい。

時刻表が貼られていないという話もあったがバス停留所がない箇所については集会所の壁に時刻表を張り付け対応した。もし時刻表が剥がれていた場合は連絡をもらえれば張り替えもするのでご協力をお願いしたい。

【鹿野町総合支所長】

気高鹿野の生活交通協議会でも委員から同様の話が出ていた。自分から見ても分かりにくく感じるが、どなたがどこでどう乗り継いだらどこにたどり着けるのか、ということもあり一枚で確認できるようにしている。

おっしゃる通り字が細かいため、必要な部分だけ抜粋することも可能ですので、高齢の方で困っていらっしゃいましたら支所の産業建設課にお問い合わせいただければ対応したい。

【産業建設課】

もう1点、鹿野支所を拠点に日ノ丸バスと気高循環バスとJRの時刻表を用意した。この時間に乗ると浜村駅、宝木駅を経由して日ノ丸バスに乗れたりそのまま鳥取まで行ける一覧表です。

支所に用意してありますのでお渡しできますし、こういったのが欲しいという要望があればご相談いただきたい。

【地元】

ライドシェアについて教えてほしい。今の制度はタクシー会社のためのような、今後法律が変わっていくと思われるが見通しがいいものか。

【交通政策課】

今は何とも言えないが、現在タクシー会社がやっている方式は日本版ライドシェアと呼ばれており、また見直しが入ると思われるがまだまだ普及もできていない状況。

鳥取においてもねんりんピックで実験しようかという動きがあるが、実際にやってみるというドライバーも集まっていないため、もう少し様子見と思われる。

【地元】

具体的な仕組みではないが何か交通のシステムを考える時、例えばキラリ号の時はアンケート結果はみんなが利用するという期待が持てる結果だったように聞いているが、実際に運行してみるとそうではなかった。その場になってみないと使う側も運行する側も、うまくいくか分からない。

今日の資料に試験運行の実施の項目もあるが、これは試験運行の段階で車を準備することも支援的には可能か。また、共助交通がうまくいけばよし、そうでない時は断念するということも可能か。

【交通政策課】

もちろん成果がなかったら撤退すべきだと考える。また、今の段階で補助メニューがなくても本当に実施に向けて検討中であれば必要な予算は要求したい。鳥取県の補助メニューもあるのでそれを活用しながら検討したい。

ある程度意見交換をしたり、別の事業者から話を聞き、想定できる問題点を避けながら試験をしていくべきかと考える。

【地元】

この小鷲河地区の公共交通の問題に対してやっと一歩が踏み出せた状況だと思っている。ただ地元だけでは2歩目に踏み出す知恵がないというか、そういう箇所が不足しているので2歩目へ進めるためのアドバイスがほしい。

【交通政策課】

先日、小鷲河地区は智頭町を視察したが、智頭町は全国から視察が来るぐらい大きな取り組みを行っており、鳥取市はまだその段階にない。例えば末恒地区で運行しているふるさとバスがあるが、これもバス事業者が減っている実態に合わせて始まったもので

週に何回と回数を決めた運行を行っている。大きく行うよりも小さな所から開始するというスモールスタートが大事だと考えるので、また意見交換をさせていただきたい。

【市民生活部長】

多くの意見をいただきお礼を申し上げる。ライドシェアの話まで出てきて未来を語るような話になったが、行政としては皆様に取り組みたいことを議論していただき、それをしっかりサポートしていきたい。費用対効果の話も出たが鳥取市役所としては誰でもどこでもいつまでも住み慣れた土地で安心して暮らしていただくよう参考にさせていただきたい。